



江東区社会福祉協議会は

法人化60周年を 迎えました！

昭和28年3月11日に任意団体として設立された江東区社会福祉協議会は、昭和39年7月24日に社会福祉法人として認可されてから60年が経ちました。私たちが60周年を迎えることが出来たのは、江東区社会福祉協議会の活動を支えてくださっている皆さんのおかげです。

これからも、「一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支え合い、誰もが笑顔で安全に暮らせるまち」の実現に向け、地域の皆さんとともに更なる地域福祉の推進に努めていきます。

法人化60周年を迎えて

江東区社会福祉協議会は、昭和28年に任意団体として発足し、昭和39年に社会福祉法人として認可を受けました。このたび法人化から60周年を迎えることができ、これまで地域の皆様や江東区、その他多くの関係機関・団体の皆様からいただいた温かいご支援・ご協力に、心より感謝申し上げます。

創設当初、戦後の復興期に「明るい社会、住みよい江東区」という理念のもとに始まった私たちの活動は、その後も各種福祉サービスやボランティア・市民活動の支援のほか、募金活動、災害時の避難者支援、居場所づくり、コロナ禍における資金貸付など、時代に即し多様化する地域福祉課題の解決に向けた取り組みを進めてまいりました。

さらに、令和5年度には権利擁護センターの中核機関化や、ボランティア・地域貢献活動センターの開設、アウトリーチ活動強化に向けたサテライト城東北部・南部の開設など大幅な体制強化を図ったほか、令和6年度には「第5次地域福祉活動計画」を策定いたしました。このように「新生・江東社協」として、一層の地域福祉活動の推進に向けた歩みを着実に進めております。

法人化60周年という節目を迎え、私たちの原点である「住民同士の助け合い・支え合い」を今一度心に刻みながら、地域の皆様と共に未来を見据えた新しい地域福祉を実現すべく、当協議会は職員一丸となって取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。法人化60周年にあたってのご挨拶とさせていただきます。

江東区社会福祉協議会 会長 渡辺 恵司



60周年を祝して

江東区社会福祉協議会が法人化60周年を迎えられたことを、江東区を代表して心よりお慶び申し上げます。

貴協議会におかれましては、この間、江東区と共に地域福祉の向上と推進にご尽力をいただきましたこと、関係する皆様の多年にわたるご努力に対しまして、深く敬意と感謝の意を表します。

近年、少子高齢化の進行や労働人口の減少、デジタル社会への転換など、社会状況やライフスタイルが大きく変化する中、コロナ禍による地域での人間関係の希薄化を始め、生活困窮、社会的孤立、ヤングケアラー、8050問題など地域福祉の課題は複雑・多様化しています。

江東区では、こうした課題解決に向け、「地域共生社会」の実現を目指し、生活上の困難を抱えるあらゆる方への包括的な支援体制を構築するため、地域や行政のつながりづくりに努め、貴協議会をはじめ様々な関係者等との一層の連携に努め、取り組みを進めております。

貴協議会におかれましては、今後とも区との連携を深め、共に地域福祉を推進する車の両輪として、令和5年度より取り組まれている地域拠点の開設や地域福祉コーディネーターの増員によるアウトリーチ活動の強化など、引き続き地域福祉推進のネットワークの中核としての積極的な活動にご期待申し上げます。

結びに、地域の皆様が互いに支え合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて、貴協議会の益々のご発展と、関係各位のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



江東区長 大久保 朋果

サテライト城東北部 (令和5年7月3日OPEN) サテライト城東南部 (令和6年2月15日OPEN) の開設

- 小さなお子さんから高齢の方まで、どなたでも気軽に立ち寄ることができる地域の居場所(交流の場)です。
- 地域におけるさまざまな困りごとの相談に、社協職員が応じる「社協の地域窓口」です。

利用されている方の声

体調などに不安があった私に、友人が新設されたサテライト城東南部に相談に行くよう勧めてくれました。体調や生活の相談ができただけでなく、何気ない日常の会話を交わしている間に、言葉にした分だけ肩の荷が下ろせたような気がしました。今では、サテライトは何かあった時・立ち止まった時の心の拠り所。安心して相談できる場所になっています。



北砂7丁目在住
玉野さん

問合せ：
サテライト城東北部 ☎ (5609) 7165 FAX (3681) 4830
サテライト城東南部 ☎ (6666) 3326 FAX (6666) 3399

地域の声



北砂四・七丁目会
長原会長

町会をあげてサテライト城東南部をバックアップしています。地域住民にとってサテライト城東南部は何でも相談でき、地域住民に「安心」を与えてくれる存在であるからです。昨年8月には町会の納涼祭でこども達に向けたポッチャコーナーを担当してもらいました。これからはサテライト城東南部を地域住民の方々に知ってもらえるよう、町会のイベント等に関わっていただきたいと思っています。



納涼会で質問する
サテライト城東南部職員

みんなに
知って欲しい!

社協事業を大特集!

高齢者 地域見守り支援事業

地域の皆さんが主体的に、その地域に暮らす高齢者に対する見守り活動を行い、高齢者の安否を日常的に確認するとともに、異常等を発見したときに迅速に対応できる体制を確保し、高齢者が住み慣れた地域で、安心して自立した生活を継続できるよう、区・社協が支援する事業です。

- 登録いただいた地域は、「サポート地域」として活動開始にむけた各種のプログラムや活動助成を受けることができます。区内では既に71の町会、自治会等が「サポート地域」として活動しています。

【令和6年度新規サポート地域】 都営大島6丁目アパート自治会

住人は昔から住んでいる方が多く、だんだん年をとって、ひとり暮らしの高齢世帯が増えており、最近は何回でも孤独死がありました。そこで、何かできないかと思い、サポート地域に応募しました。まずは、集会所で行っている「いきいき体操」やおしゃべり場など、みんなが集まれる場をサロン化していきたいので、江東社協には、引き続き支援してほしいです。



都営大島6丁目アパート自治会
野瀬会長

いつでも、だれでも参加できる! サテライトカフェ(社協カフェ)

- 社協カフェは「みんなの居場所」として地域でのつながりをつくるものです。おしゃべりを楽しむ茶話会のほか、生活に役立つイベント、福祉総合相談などを行っています。
- 区内4地域での定期開催のほか、各サテライトでの「サテライトカフェ」、URやJKKと共催による「出張社協カフェ」なども開催しています。

サテライトカフェ(城東北部)に参加された女性の声

「(自宅から)電車にもバスにも乗らずに行ける、みんなの居場所ができた!」と知って、思い切って訪れてみました。狭い会場でのゲームは大盛り上がり。ちょっと狭いって、親近感が持てていいものだと思え。何を話したらいいのだろう!と思う距離感がなく、無口な男性とも気軽に打ち解けられました。



ボランティア・アカデミー 『地域活動への入り口』コース

- ボランティア・アカデミーは、令和6年度より開始した新規事業です。
- 講座やグループワーク、ボランティア活動を通じて、区の地域と福祉について「感じる」「考える」「行う」をテーマに、受講生の地域活動への入り口づくりを行います。

受講者の声

講座に出席して、ボランティア活動が、地域活動への入り口に繋がっている事に心強い思いを持ちました。今後とも色々な活動を通して地域に繋がっていきたいです。

問合せ：江東区ボランティア・地域貢献活動センター
☎ (3645) 4087 FAX (3699) 6266

おひとりさま相談・中核機関

専門職の声

高齢者や障害者の方、あるいはそのご家族が抱える問題を中心とした法律相談に対応しています。ご相談者が抱えている不安や課題を整理し、法的な視点からの丁寧なアドバイスをおこなっています。



第一東京弁護士会
藤井弁護士

問合せ：権利擁護センター「あんしん江東」
☎ (3647) 1710 FAX (5683) 1570

支え合い、助け合いのあるまちを目指して 家庭訪問型子育て支援(ホームスタート)※

※ホームスタートとは：1970年代にイギリスで始まり約50年にわたって実践されている家庭訪問型「ボランティアが訪問する」子育て支援事業です。



● ホームビジター募集 ●

訪問活動をしてくださるホームビジター(ボランティア)を募集しています。毎年5月から7月まで、ホームビジター養成講座を開講しています。詳細は社協ホームページや区報にて告知します。

- 初産婦や未就学児(6歳以下)のいる子育て家庭の孤立防止、育児不安の軽減を目的として、研修を受けた子育て経験のあるホームビジター(ボランティア)が週1回2時間程度、計6回訪問します。
- 初産婦の方の訪問は4回程度
- お話をお聴きし(傾聴)、外出や家事と一緒にしながら(協働)、気持ちに寄り添うことを通じて子育て家庭を支援しています。

ホームビジターの声

「活動を始めたきっかけは?」
こどもにかかわるボランティアがしたいと思っていました。自分が子育てをしている時はこのようなサポートがなかったので、自分が助ける側になりたいと思いはじめました。

「活動した感想は?」
子育ての大変さや、辛さ、抱えているさまざまな問題に対して本書の部分を聴かせていただくにあたり、傾聴の難しさを毎回感じます。それでも、訪問の回数を重ねていくと、初回と最終日のお母さんの表情が変わっていることに気づき、本来持っている皆さんのエンパワメントに感動させていただいております。



利用されている方の声

「利用のきっかけは?」
実家が遠方のためお話をすることも行くこともできず、また、夫は仕事で忙しいためワンオペになることが予測できました。そのため、早い段階から、いろいろ調べてホームスタートに辿り着きました。

「利用した感想は?」
実家のお母さんみたいで、毎週来てくださることが楽しみでした。夫の転勤で江東区に越してきたため、周りに友達も知り合いもありません。不安が多い日々でしたが、おかげさまで今ではこどもを通して多くの友達や知り合いができました。江東区に越してきて良かったです。



問合せ
訪問支援について：NPO法人こうとう親子センター
ホームスタート・こうとう
☎090-2162-8835
事業について：在宅サービス係
☎ (5683) 1573 FAX (5683) 1570

江東区の福祉活動の充実に向けて 赤い羽根共同募金運動と歳末たすけあい・地域福祉活動募金

- 赤い羽根共同募金運動(10月実施)と、歳末たすけあい・地域福祉活動募金(12月実施)の2つの募金活動を行っています。毎年、多くの町会・自治会の皆さん、民生・児童委員の皆さんにご協力いただいています。
- 赤い羽根共同募金では東京ユニテッドバスケットボールクラブ、歳末たすけあい運動では清水建設江東ブルーシャークスの試合会場で、地域のこどもたちと一緒に街頭募金もしています。
- 区内の保育園や障害者施設、企業・団体などに募金箱を置いていただき、募金活動にご協力いただいています。

たくさんの施設・団体の皆さんに募金箱のご協力をいただいています



特定非営利活動法人 KOTOともそだちネット
あゆみ保育園



特定非営利活動法人 フローレンス
みんなのあそびあそび
保育園東葉

街頭募金に協力いただいたこどもたちの声

東京ユニテッドバスケットボールクラブホーム開幕戦にて



たくさんの人が笑顔で募金してくれて、とても嬉しかったです。私たちが集めたお金が困っている人たちのために使われると聞いて、みんなで大きな声を出してがんばりました。募金をしてくれた皆さん、ありがとうございました!

深川バスケットボールクラブの皆さんより

清水建設江東ブルーシャークスホーム開幕戦にて



初めは緊張して上手く募金をお願いの出来なかったけどみんな優しく応えてくれたので最後には上手出来るようになったと思います。何度も募金してくれた人もいて嬉しかったです。優しい気持ちで集まったお金でみんな幸せになってほしいと思います。

江東ラグビーチームの皆さんより

募金活動にご協力いただける施設・企業・団体の皆さんを募集しております。ぜひ福祉サービス係までご相談ください。

問合せ：福祉サービス係 ☎ (3647) 1898 FAX (3699) 6266

江東社協へのご寄付

- 江東社協では、地域をより良くしていくため、さまざまな方法で寄付を受け付け、活動の財源としています。
- 寄付には、通常のご寄付のほか、「歳末たすけあい募金」などの募金活動、売上の一部が寄付される「寄付型自販機」の設置や、遺産の一部またはすべてを寄付する「遺贈寄付」などさまざまな形があります。寄付をご検討の際は、ぜひお気軽にご相談ください。

問合せ：総務課管理係
☎ (3647) 1895 FAX (3647) 5833

寄付型自販機設置者の声

私たちは毎年、江東区の福祉推進のために寄付を行っています。さらに他の方法で社会貢献できないかと考えていたところ、寄付型自販機のお話がありました。現在、工事現場に寄付型自販機を設置し、日々の飲み物購入を通じ、会社として、また従業員一人ひとりとして社会貢献を意識することができ、大変意義深く感じています。この取り組みが、地域や社会に貢献できる一助となれば幸いです。



新日本工業株式会社

昭和・平成・令和
時代とともに

江東社協 60年史

昭和28年に任意団体として発足し、昭和39年の法人化から60年。

時代の流れとともに、江東社協も変化を遂げてきました。

生活困窮者、障害者、高齢者、子どもたちに寄り添い、地域の声を聞きながら、住民、ボランティア、多くの関係機関とともに歩んだ歴史を振り返ります。

昭和28年

おもな出来事

S28
NHK放送開始

昭和28年 (1953)

■任意団体として千田町に発足

当時の趣意書には次のように書かれています。

「『明るい社会 住みよい江東区』これは区民全体の希求して止まないところであります。～中略～ 地域社会全体の向上を図ることはその地域に住む人達全部の連帯責任であり、義務でもあります」

初代会長は、当時の江東区長 二瓶哲治氏 当初の予算額は 644,200円でした。

～渋沢栄一と社会福祉協議会～

「日本資本主義の父」と称され、新一万円札の肖像にも選ばれた渋沢栄一は、明治41年設立の「中央慈善協会」(現：全国社会福祉協議会)の初代会長でもありました。社会福祉の啓蒙、国民の理解促進、福祉のネットワーク化、持続可能な支援の実施などを訴え、社会貢献活動に尽力しました。



昭和30年代

S33
東京タワー完成
S35
カラーテレビ放送開始
S36
みんなのうた放送開始
S39
東京オリンピック開催
S39
日本初、東海道新幹線(東京-大阪間) 開通

高度経済成長と公害問題

昭和30年 (1955)

■世帯更生資金 (現・生活福祉資金) 貸付事業開始

昭和31年 (1956)

■歳末たすけあい募金開始

■募金額 625,837円との記録が残っています。

昭和39年 (1964)

社会福祉法人 江東区社会福祉協議会 設立認可

■無料はり・灸・マッサージ事業開始 (～令和5年)



昭和40年代

S43～45頃
学生運動激化

S44
アポロ11号
人類初月面着陸

S44
「サザエさん」放送開始

S45
大阪万博開催

S47
沖縄返還

S48
第一次
オイルショック

S49
セブンイレブン
1号店が豊洲に
オープン

昭和40年 (1965)

■社協だより創刊号発行

昭和41年 (1966)

■身体障害児通所施設「青い鳥ホーム」開設
■第1回江東区老人大学開講 (のちの自修大学)

昭和42年 (1967)

■知的障害者通所施設「若竹福祉作業所」開設
■中学校心身障害児学級「卒業を祝う会」開催 (～令和5年度)

「卒業を祝う会」は江東区手をつなぐ親の会との共催で、中学卒業後早くから社会にでる生徒たちを祝い激励したいとの思いから始まりました。

昭和45年 (1970)

■全国社会福祉協議会会長より「優良社協」として表彰を受ける
■応急小口福祉資金貸付事業開始
■緊急介護給付事業開始

昭和48年 (1973)

■江東区役所新庁舎 (現・東陽町庁舎) の完成に伴い
江東社協も2階福祉事務所隣に移転



社協だより創刊号



住吉2丁目に開設された「青い鳥ホーム」



昭和63年3月開催の「卒業を祝う会」の様子
ピンクのカトリアを胸に卒業おめでとう

昭和50年代

昭和51年(1976)

- 第1回ボランティア教室開講
- 第1回身体障害者スポーツ大会開催

昭和53年(1978)

- ボランティア相談コーナー開設(区役所2階)
- 第1回手話講習会開講

昭和54年(1979)

- 愛の杖交付開始
- 緊急日用品給付事業開始

昭和55年(1980)

- 第1回初級点字講習会開講

昭和56年(1981)

- 盲人(視覚障害者)ガイドヘルパー派遣事業開始(～平成15年)
- 手話通訳員派遣事業開始

昭和57年(1982)

- 第1回心身障害者作品展開催

昭和58年(1983)

- 「江東区障害者福祉センター」管理運営受託
- 第1回初級朗読ボランティア講習会開講
- ボランティア広報誌「ひびき」創刊号発行(現・コネクトこうとう)
- 「江東ボランティア・センター」開設
- 社協だより新聞折り込み開始

昭和59年(1984)

- 「江東区城東老人福祉センター」管理運営受託
- ひとり暮らし老人給食サービス開始
- 交通遺児援護基金設置(～平成14年)
- 学生ボランティア夏季体験学習開始



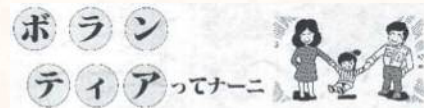
アイマスクを使つてのガイドヘルプ実習

視覚に障害のある方の病院への同行や、ショッピング、講習会参加など外出のお手伝いをするガイドヘルパー。



チャレンジ精神あふれる作品がいっぱい

心身障害者作品展の様子。現在は障がい者作品展と名を変え、令和6年度で43回目になります。お楽しみに！



当時の社協だよりでは、こんな見出しでボランティア活動を呼び掛けていました



21世紀をめざし
—高齢者は挑戦する—

5月10日にオープンした城東老人福祉センターは、高齢者のもつ力を引き出し、健康で生きがいをもつ施設として注目もあっております。

城東老人福祉センター開設当時の社協だより

S51
ロッキード事件

S54
ソニー「ウォークマン」発売
S54
「機動戦士ガンダム」「ドラえもん」放送開始

S58
東京ディズニーランド開園
S58
ファミリーコンピュータ発売

昭和60年代

昭和60年(1985)

- 「江東区深川老人福祉センター」管理運営受託
- 伊豆大島三原山噴火被災者見舞金を歳末たすけあい募金により配分被災された方への支援

はつらつ老後の夢先案内!!
—老人大学にまなぶ高齢者たち—



昭和61年2月から始まったミニハンディキャブの貸出。その名も「フレンドリー号」。



社会福祉協力者に賞状を贈る当時の小松崎単次会長(江東区長)



昭和63年発行の社協だよりの会員募集記事

S60
日航機墜落事故

S61
チェルノブイリ原発事故
S61
ポケベルの普及
S61～H3
バブル経済景気

【法人化20周年の社協だより記事より抜粋】
「20年の歩みのなかで特筆すべきことは、社協が設立以来、心身障害者児の通所訓練施設を運営してきたことであり、当時としては都内でも珍しく他に先駆けて実施した試みは広く反響を呼び多くの評価を得てきました。
～中略～そして初めて障害者福祉センターが区によって新設され、管理運営を社協が受託することになりました。」

昭和62年(1987)

- 障害者通所授産施設「江東区まつのみ作業所」開設、管理(翌・昭和63年より運営)
- 点訳ボランティア養成事業開始(点字講習会・点訳サービス)(～平成12年)
- 手話通訳員養成事業(手話講習会)開催

ボランティア養成講習エンジン全開



S63
リクルート事件

平成
元年代

H1
日本で初めて消費税
3%導入
H1
ベルリンの壁崩壊

平成元年（1989）

- ボランティア活動展開催
- 老人介護講習会開催
- 障害者作品バザー「手作り市」開催

江東ボランティア・センター開設5周年を記念して開かれた活動展。これまでの活動実績を広く区民に紹介するため、「下町の愛さわかー知り愛・ふれ愛・たすけ愛」をテーマに亀戸ステーションビルを会場に開かれました。



ボランティア活動展
ボランティア活動展の様子



▲老人介護講習会

家族に要介護者がいる方や、ボランティア活動を希望している方を対象に、実技実習を交えた講習会を定期的に開催するなど、在宅福祉への取り組みに力を入れていました。



▲「お宮さんいっぱいごないかなー」

区内障害者作業所で作った製品を販売する「手作り市」。事業の調整やPRなどを江東社協が行っています。



●障子の手作業によるボランティア活動

運転する人がいない利用者のために、運転ボランティアの派遣も同時に行っています。

H3
ソ連崩壊

平成2年（1990）

- ハンディキャブ（リフト付きワゴン車）貸出事業開始

H4
「クレヨンしんちゃん」
放送開始

平成4年（1992）

- 「江東区亀戸老人福祉センター」管理運営受託



亀戸老人福祉センターオープン!!

城東、深川に続き、亀戸にも老人福祉センターが開設し、健康維持、学習の場、ふれあい・出会いの場として多くの方にご利用いただきました。

H5
Jリーグ開幕

平成5年（1993）

- 在宅介護者のつどい開催

H7
ボランティア元年
H7
阪神・淡路大震災
H7
地下鉄サリン事件
H7
PHSサービス開始

平成7年（1995）

- 赤い羽根共同募金事務局となる
- ホームヘルパー養成講座を開催（～平成14年）
- 高齢者総合福祉センター（東陽6丁目）に移転



社協事務局が高齢者総合福祉センター内に移転!

当時の「社協だより」紙面より



当時の室橋昭会長（江東区長）から大島新生幼稚園へ感謝状を贈呈

H9
消費税5%
H9
「ポケット・モンスター」放送開始

平成8年（1996）

- 「江東区深川老人福祉センター森下分館」管理運営受託
- 「江東区福祉公社（ふれあいサービス）」が社協に統合

平成9年度から事務局の体制が「地域福祉課」「福祉サービス課」の2課制となりました。赤い羽根共同募金事務局を区から引き継ぎ、ふれあいサービスが福祉公社から統合されるなど、事業拡大に伴い変わっていく江東社協です。

パソコン、インターネットが普及してきた当時、ボランティアセンターでも平成10年4月にコンピューター端末を導入。「ボランティア活動のコーディネートに利用することで、諸条件を入力すればニーズに合うボランティアをたちどころに検索できます」と社協だよりに掲載されていました。



コンピューターでボランティア検索中

平成
10年代

H10
Windows98発売

平成10年（1998）

- 「江東区亀戸福祉作業所」管理運営受託（～平成13年）
- 財産保全サービス事業開始
- リサイクル介護用電動ベッド貸出事業開始

地域福祉活動計画に対する区民の皆さまのご意見をお伺いするため、区内4か所の会場で住民懇談会を開催しました。



●熱心な討論が行われた住民懇談会（毎月2回、観音区民センター各棟集）

H12
三宅島火山噴火
H12
介護保険制度開始

平成11年（1999）

- 江東区地域福祉活動計画策定
- 地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）実施

平成12年（2000）

- 江東社協会員あて「事業のあらまし」作成
- 三宅島からの避難者支援実施

2001ボランティアまつり「わをつくろうしりあい ふれあい たすけあい」は参加者約1200名の賑わいでした。



H13
アメリカ同時多発テロ
事件

平成13年（2001）

- ファミリー・サポート・センター事業開始
- 「江東区障害者地域自立生活支援センター」開設（～平成17年）
- ボランティア連絡会・江東ボランティアまつり開催

平成14年（2002）

- ふれあい・いきいきサロン活動支援事業開始
- シニアボランティア養成講習会・ボランティア入門講座開催
- 離職者支援資金開始
- ふれあいサービス事業拡大（一時支援・ランドリーサービス追加）
- 社協ホームページ開設



地域の声から生まれた「豊洲子育てひろば」 「多くの不安とストレスを抱え、話し相手もなく、一日中子どもと二人きり。そんな子育てに支援の輪を広げたい」 当時から子育て支援活動に奔走していた現・渡辺会長の呼びかけから始まりました。乳幼児を連れて安心してあそべる場所が少なかった区南部地域で民生・児童委員やボランティアにご協力いただき、豊洲子ども家庭支援センターが開所されるまでの間、その役割を果たしました。

■ふれあいサービスの事業拡大の中でも特に産前産後の一時支援は多くの方にご利用いただきました。

平成15年 (2003)

- 災害ボランティア養成講習会開催
- 企業の社会貢献活動支援開始
- 豊洲子育てひろば (~平成19年)

平成12年9月の三宅島噴火で全島避難となり、4年余り江東区で避難生活を送られていた方々が平成17年に帰島。その間の支援に対する感謝のメッセージを当時の社協だよりから要約しました。



江東三宅島会の方々と支援ボランティアグループ和船に乗る

H16
新潟県中越地震
H16
「冬のソナタ」
韓流ブーム

平成17年 (2005)

- 亀戸あかちゃんひろば (~令和3年)
- ボランティアコーディネーター講習会開催

「慣れない都会生活に不安と焦りで意気消沈の境地にありましたが、各種イベントの企画や生活必需品の提供、歳末たすけあい運動による支援金の支給など物心両面に渡る支援のおかげで前向きな姿を取り戻すことができた」と感謝しています。「江東・三宅島会支援ボランティア」も立ち上がり、私たちと行動を共にする中で温もりと元気をいただきました。長い間ありがとうございました」



シニアボランティア養成講習会の受講仲間から発足した車椅子点検整備ボランティアの会 (結成当時の活動の様子)

H19
初代iPhone発売

平成18年 (2006)

- 指定管理者として施設管理運営
障害者福祉センター (~令和4年度) 老人福祉センター (~平成22年度)
まつのみ作業所 (~平成27年度)
- 福祉教材貸出開始
- 車椅子点検整備ボランティアの会活動開始

平成19年 (2007)

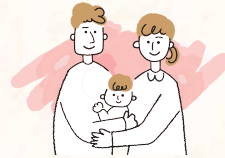
- 権利擁護センター「あんしん江東」開設
- ボランティアコーディネーター相談活動開始

平成20年代

平成21年 (2009)

- 第2次江東区地域福祉活動計画策定
- ファミリー・サポート事業 対象年齢拡大

ファミリー・サポートは、生後4か月からだった対象年齢を、生後57日から小学3年生までのお子さんに拡大しました。



H20
リーマンショック

平成22年 (2010)

- 介護保険要介護認定調査事業開始

ご近所の絆が「孤立」を防ぐ！
「高齢者地域見守り支援事業」スタート

ひとり暮らし高齢者が増加し、社会的な孤立や孤独死が大きな社会問題として顕在化した当時、区から委託を受け、「高齢者地域見守り支援事業」がスタート。老人福祉センターの指定管理終了後、地域福祉推進課を新設し、町会・自治会・老人クラブなどが行う地域での見守り活動、支えあい活動の本格的な支援に取り組んでいきました。

H23
東日本大震災

平成23年 (2011)

- 高齢者地域見守り支援事業開始
- 権利擁護センター法人後見等事業開始
- 東日本大震災被災者支援開始

避難者の孤立化を防ぐ

国家公務員宿舎東雲住宅をはじめ、東日本大震災の被災地より江東区内に避難している方々への戸別訪問を重点実施するとともに、サロンの設置、交流イベントの開催など、行政・福祉関係団体等と連携した支援活動を実施しました。

H24
東京スカイツリー開業

平成25年 (2013)

- 社協出前講座開始

平成26年 (2014)

- 第3次江東区地域福祉活動計画策定



平成27年度福祉のつどい
当時の山崎孝明会長 (江東区長) から
都立東高等学校生徒会へ感謝状を贈呈



災害ボランティアセンター
設置運営訓練の様子

江東社協は、災害で甚大な被害が生じた場合、手助けを必要とする被災者と各地から集まったボランティアをコーディネートする(つなぐ)「江東区災害ボランティアセンター」を設置・運営します。

H26
消費税 8%

平成27年 (2015)

- 社協だより全戸配布開始
- 高齢者生活支援体制整備事業開始
- 生活支援コーディネーター配置
- 社協カフェ「みんなの居場所」事業開始



社協カフェ

地域ボランティアの協力を得て、おしゃべりを楽しむカフェコーナーや生活に役立つイベント、福祉総合相談など区内4か所で定期的に開催しています。

平成28年 (2016)

- 家庭訪問型子育て支援 (ホームスタート事業) 開始
- 地域福祉コーディネーター配置
- 障害者総合支援法に基づく障害支援区分認定調査事業開始
- ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業開始

地域福祉コーディネーターとは

地域の困りごとや課題に対し、地域住民や関係機関と協力しながら、解決に向けた取り組みを行う、地域の身近な相談窓口です。孤独死を減らす地域の見守り活動の支援、社協出前講座、社協カフェの定期的な開催、ふれあい・いきいきサロンの活動支援など、積極的に地域に出て活動しています。



H28
熊本地震

平成29年 (2017)

- 地域福祉サポーター養成講座開始
- 多機能型地域福祉活動拠点助成開始

H30
西日本豪雨

令和
元年代

- R 1 消費税10%
- R 2 新型コロナウイルス
緊急事態宣言発令
R 2 令和2年7月豪雨
- R 3 東京オリンピック・
パラリンピック開催
- R 4 ロシアの
ウクライナ侵攻
- R 4 安倍元首相銃撃
- R 5 生成AIの活用進む

平成31年・令和元年 (2019)

- 第4次江東区地域福祉活動計画策定
- 江東区内社会福祉法人ネットワーク立ち上げ

令和2年 (2020)

- 生活福祉資金
緊急小口資金等の新型コロナ特例貸付開始 (~令和4年)

令和3年 (2021)

- 江東社協「Twitter (ツイッター)」(現・X (エックス)) 開設

令和5年 (2023)

- 地域拠点「サテライト城東北部」開設
- 江東区ボランティア・地域貢献活動センター開設
- 権利擁護センター「あんしん江東」中核機能機能を追加
- ファンドレイジングの取り組み開始



第5次地域福祉活動計画策定にあたり開催した「まちづくり話し合いひろば」参加された方々のご意見を計画に反映させました。計画が完成した後も、地域の手による地域づくりの場となるよう、継続開催しています。

令和6年 (2024)

- 第5次江東区地域福祉活動計画策定
- 食糧支援事業開始
- 地域拠点「サテライト城東南部」開設
- 江東社協「Instagram (インスタグラム)」開設



社会福祉法人
江東区社会福祉協議会
法人化60周年



コロナ禍の令和2年6月にオープンした大島六丁目団地内のコミュニティサロン「カフェ06 (ゼロロク)」

新型コロナウイルスの蔓延で
激変した私たちの日常

緊急事態宣言が発令され、マスク着用義務やソーシャルディスタンスの保持、イベントの中止など人と人とのつながる機会が制限される中、休止を余儀なくされた地域活動も多々ありました。そんな中でも、安全対策を講じながら、つながりを途切れさせないよう、新たな孤立を生まないように活動を続けてきた地域の方々に江東社協はサポートし続けました。



今や当たり前となったZoomでのオンライン会議



ついでで席を区切って活動するカラオケサロン



令和5年6月
江東社協初の民間からの会長が誕生!

これまで社協の会長はその当時の江東区長が選任されていましたが、初めて民間から「江東区助け合い活動連絡会」の渡辺恵司代表が選任されました。



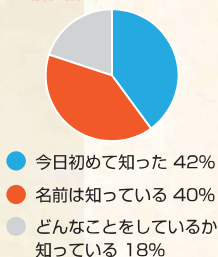
令和5年7月、江東社協初の地域拠点「サテライト城東北部」が大島8丁目にオープン



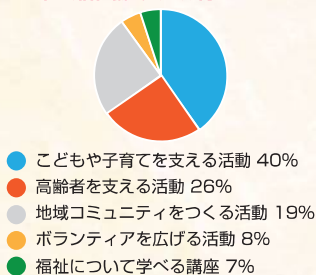
令和6年2月、2か所目の地域拠点「サテライト城東南部」が北砂7丁目にオープン

昨年10月の区民まつりで行った
江東社協の認知度 アンケート結果

Q1.社会福祉協議会を知っていますか?



Q2.社会福祉協議会に期待すること



江東社協を知らなかった人 42%

以前から指摘されている社協のPR不足という課題がまだまだ改善されていない結果となりました。「江東社協の取り組みをもっと知ってほしい」「他人ごとではない、我がごとの地域づくりと一緒に進めたい!」江東社協の使命を胸に、新たな取り組みにも挑戦していきます。



もっともっと身近な社協に

■ 地域拠点・サテライトが増えます!

ただいま、サテライト深川北部の開設準備中! 今後も、区内の拠点を増やし、きめ細やかなサービス提供に努めます!

お待たせしました!
深川地区にもサテライトできます

■ マスコットキャラクター誕生します!

60周年を記念し募集した江東社協のマスコットキャラクターがいよいよ決定! 1月26日(日) 感謝のついでで発表します! お楽しみに!

どんなキャラクターになるのかな?

ほぼ毎日? 投稿してます!

■ 公式Instagramはじめました!

令和6年8月に開設し、早くもフォロワー300人突破! 事業紹介だけでなく、区内を走り回る社協職員が見た地域の何気ない風景写真なども投稿しています。今後もたくさんの方の投稿を通して、江東社協を知っていただけるよう頑張っていきます!



KOTOSHAKYO_OFFICIAL

江東区社会福祉協議会からのメッセージ

そして、これからも—— 私たちは「一人ひとりの尊厳が守られ、地域でともに支え合い、誰もが笑顔で安全に暮らせるまち」の実現に向けた活動を行っていきます。少子高齢化の進展や孤独・孤立、生活困窮、コミュニティの脆弱化など、多様化・複雑化する地域課題の解決に向け全力で取り組みます。そのために、職員一丸となり、地域の皆さんやさまざまな団体との協力や連携を積極的に行い、地域の支え合い活動の支援など、地域の皆さんとともに地域福祉の推進に努めます。